流山フィルハーモニー交響楽団 第64回定期演奏会

ビゼー 交響曲第1番 プラームス 交響曲第3番

2024年12月15日(日) 13:30開場 14:00開演 流山市文化会館 前売り 900円 当日 1,000円 • 全席自由 • 中学生以下無料



指揮 佐藤雄-





チケット販売

紀伊國屋書店流山おおたかの森店(おおたかの森S・C)

チケット予約/お問合せ

インターネット予約 「流山フィル」で検索

またはhttp://nagareyamaphil.g2.xrea.com/index.html/

メール ryuphil_info@yahoo.co.jp 電話 090-8744-1570 (小林)



こちらのQRコード からも予約できます

主催:流山フィルハーモニー交響楽団 後援:流山市教育委員会 協力:流山市音楽家協会

ジョルジュ・ビゼー(1838年10月25日 - 1875年6月3日)

交響曲第1番 ハ長調

ビゼーはパリに生まれましたが、お父さんが美容師をしながら歌手をしていて、お母さんはピアニストということで、音楽一家に育ったせいもあって、ほぼ必然的に音楽の道に進んだようですね。ビゼーといえば組曲「アルルの女」や歌劇「カルメン」が有名ですよね。どちらも物語を基にした音楽ですが、もともとビゼーが生まれたフランスやとなりのスペインなどの国では当時、同じヨーロッパでもドイツと違って交響曲のような純粋な器楽曲よりも声楽曲やオペラのような曲が好まれていたようです。なのでビゼーも交響曲を作曲していたなんてちょっと意外な気がします。ビゼーは実際は3曲の交響曲を作曲したらしいのですが残っているのはこの曲だけなので「第1番」をつけずにただ「交響曲」と呼ばれることが多いようです。1855年にビゼーが17歳のとき、練習用に作曲されたということですが、フランスで交響曲の人気がなかったためもあり、生前には一度も演奏されなかったそうです。注意深く聴くとのちの有名な作品を想わせるメロディやハーモニーがどこかに隠れているかもしれません。このあとに演奏されるブラームスに代表されるドイツ風の重厚な交響曲とは違った明るく軽やかな響きに彩られた雰囲気をお楽しみください。(演奏時間:約30分)

ヨハネス・ブラームス(1833年5月7日 - 1897年4月3日)

交響曲第3番 へ長調 作品90

ブラームスはコントラバス奏者だったお父さんから音楽のレッスンを受けたのち、やはりほぼ必然的に音楽の道に進むことになります。作曲家としてはベートーヴェンの9つの交響曲の存在がプレッシャーとなって、交響曲第1番を書き上げるのに19年もかかったというのは有名な話ですね。この第3番は1883年、ブラームス50歳の時の作品。ビゼーの交響曲とは対照的に、重厚で絶対音楽の極致といってもよい純粋正当なドイツ音楽の中心となる交響曲ジャンルを代表する曲のひとつといってもよいでしょう。流山フィルではこれまでブラームスの4つの交響曲をすべて演奏してきましたが、この第3番は2012年以来12年ぶりの演奏となります。佐藤雄一先生の指揮では初めての演奏となります。LPレコード全盛時代の大巨匠の演奏を想わせる壮大かつ繊細で甘美なブラームスをお届けできるものと思います。繰り返しは、今回も全部やります。(演奏時間:約40分)

【参考資料】ウィキペディア、ビゼー/交響曲ハ長調(日本楽譜出版社)ほか



佐藤雄一(Sato Yuichi)

国立音楽大学教育音楽学科第 I 類卒業。大学在学中に室内オーケストラ「アマデウス・アンサンブル」、合唱団「コレギウム・ヴォカーレ東京」を組織して指揮。小林道夫氏からは「音に対してこれほどまでに具体的なイメージを持てることは驚異的」との讃辞を受ける。また若手プロ演奏家による「NENDOオーケストラ」を組織して指揮。1999年にパリ・エコール・ノルマル音楽院指揮科に学び、一年後には音楽院初となる飛び級で高等ディプロムを取得し首席で卒業、音楽院史上最高得点に対し審査員特別賞を授与される。流山フィルでは十年以上に渡って数多く指揮している。

流山フィルは団員募集中です。お気軽にお問い合わせくだ さい(弦楽器大歓迎!)

メール ryuphil_info@yahoo.co.jp 電話 090-8744-1570 (小林)

<流山市文化会館交通アクセス>

- ○駐車場(普通車) 195台 演奏会当日は駐車場が大変混雑 しますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
- ○流鉄流山線「流山駅」下車徒歩8分
- ○つくばエクスプレス「流山セントラルパーク駅」下車徒 歩約20分
- ○東武バス「加二丁目」または「加二号公園前」下車徒歩 2分
- ○京成バス「文化会館入口」下車徒歩2分

